

【普通科】 1 年次 【必修】 科目「社会と情報」授業のシラバス

1 概要

教科名	情報	科目名	社会と情報	単位数(コマ数)	2 (78)
科目の 目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。				
教科書 (出版社)	最新社会と情報（実教出版）		副教材 (出版社)		

2 学習の方法

(1) 予習について

授業では、科目の目標と照らし合わせて必要最低限の内容のみを扱います。教科書の内容すべてを扱うことはできません。授業では扱っていない内容を含めて次の授業で扱う内容に目を通しておくと、全体の流れをつかむことができ知識の定着に役立つかと思います。

(2) 授業について

実習と座学の時間をバランス良く配当します。週2回45分の授業を大切にしてください。実習においては、コンピュータを使用する機会が多くあるので、友達と協力しながら取り組んでください。座学においては、考察したり、友達と協力して意見を共有しまとめたり、発表したりする機会があるので積極的に活動してください。

(3) 復習について

各自で家庭学習の時間を確保し、定期的な復習を心掛けてください。

〈学習アドバイス〉

学習の基本は授業です。45分間真剣な気持ちで取り組んでください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	情報について関心をもち、情報社会への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、情報社会の一員としての望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。(授業に対する姿勢や提出物の提出状況を評価します。)
② 思考・判断・表現	情報社会への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、情報社会の一員として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。(情報社会へ主体的に参画しようとする考えられているかどうかを評価します。)
③ 技能	情報に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、情報社会への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。(情報機器の適切な操作方法が身についているかどうかを評価します。)
④ 知識・理解	情報に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、情報社会の一員としての望ましい心構えについて理解している。(教科書に出てきた情報に関する内容が理解できているかどうかを評価します。)

(2) 評価の方法（以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する）

評価材料		定期考査・確認テスト g		小テスト	グループワーク	実技
観 点	割合					
① 関心・意欲・態度	25%	△	授業の振り返りを記述することがあります。	×	○	○
② 思考・判断・表現	25%	◎	情報社会における適切な対応を問います。	○	○	○
③ 技能	25%	○	情報に関連する計算やソフトウェアの操作方法を問います。	○	△	◎
④ 知識・理解	25%	○	情報に関連する語句やその意味を問います。	○	△	△

〈担当者からのメッセージ〉

- 「社会と情報」における学習は、他の教科・科目の学習にも役立ちます。
- 体験的な学習を重視し、情報手段を活用した実習も積極的に取り入れています。
- 情報モラルの育成の充実を図っています。

【普通科】 1 年次 【必修】 科目「社会と情報」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期 4	1 章 情報社会と私たち 1 節 情報社会 【実習】（3章1節）	6	・情報化社会 ・ビジネス文書の作成	① ③	情報社会への適切な対応を目指して主体的に取り組むことができる。 ワープロソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。	速度（タイピング） 前期期末考查
5	2 節 情報とメディア 3 節 情報モラルと社会のルール	8	・情報とメディアの特徴 ・情報モラル	④ ①	情報やメディアに関する基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。 情報社会の一員としての望ましい心構えを身に付けることができる。	
6	【実習】（3章1節）	6	・ビジネス文書の作成	③	ワープロソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。	
7	2 章 情報機器とデジタル表現 1 節 情報機器とデジタル	8	・情報機器と種類と活用 ・表の作成	④ ③	情報機器の種類と活用方法に関する基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。 表計算ソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。	
8	2 節 デジタル表現 【実習】（3章2節）	4	・数値のデジタル化 ・文字のデジタル化 ・表の作成	② ③	数値や文字をデジタル表現する技術を適切に活用することができる。 表計算ソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。	
9	2 節 デジタル表現 【実習】（3章2節）	6	・音声のデジタル化 ・画像のデジタル化 ・表の作成	② ③	音声や画像をデジタル表現する技術を適切に活用することができる。 表計算ソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。	
後期 10	4 章 コミュニケーションとネットワーク 1 節 コミュニケーション	10	・コミュニケーション	④	目的に応じたコミュニケーションの方法について理解することができる。	
11	【実習】（3章3節） 2 節 ネットワーク	10	・スライドの作成 ・ネットワークとインターネット	③ ④	プレゼンテーションソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。 ネットワークの特性やインターネットサービスに関する基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。	
12	【実習】（3章3節）	6	・スライドの作成	③	プレゼンテーションソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。	
1	3 節 情報セキュリティ 【実習】（3章3節）	4	・情報セキュリティ ・スライドの作成	④ ③	情報の暗号化に関する基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。 プレゼンテーションソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。	速度（タイピング） 後期期末考查
2	5 章 情報社会と問題解決 1 節 情報システムと人間	6	・社会における情報システム	④	社会における情報システムに関する基礎的・基本的な知識を身に付けることができる。	
3	2 節 問題解決 【実習】（3章3節）	4	・問題解決の手法と実践 ・スライドの作成	② ③	問題解決の手法に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、問題の解決に向けた適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用することができる。 プレゼンテーションソフトウェアの操作技術を適切に活用することができる。	
		計 78				

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。